


株主の皆様へ

日本板硝子株式会社
第157期 報告書
2022年4月1日～2023年3月31日



2022年10月、南米の旺盛な需要を背景に、アルゼンチンで新たなフロートガラス工場が操業を開始しました。

株主の皆様へ



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第157期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の概況についてご報告申し上げます。

2023年6月

日本板硝子株式会社
取締役 代表執行役社長兼CEO

細沼 宗浩

2023年3月期の総括

当期(2023年3月期)は、原燃材料費等コストの高騰、自動車生産の制約等、当社にとって強い逆風下での事業環境となりましたが、当社グループの中期経営計画「リバイバル計画24(RP24)」における主要施策に取り組み、全社をあげてこれらの影響の緩和に努めてまいりました。

その結果、当期の業績は、売上高が前期比27%増の7,635億円(前期は6,006億円)、営業利益は前期比74%増の348億円(前期は200億円)となりました。ただ、第2四半期に欧州自動車用ガラス事業ののれん・無形資産全額(488億円)について減損損失を計上したため、税引前損失、当期損失、親会社の所有者に帰属する当期損失となりました。

2024年3月期の取り組みと 中期経営計画「リバイバル計画24(RP24)」の推進

2024年3月期は、RP24の最終年度となります。燃料費はやや低下しましたが、引き続き世界的なインフレ拡大に伴う原材料費や運送費、人件費その他のコスト上昇の影響、また金利上昇に伴う潜在的な景気後退リスク等、事業環境は不透明です。4月より新たな経営体制がスタートしましたが、RP24における3つの改革である「コスト構造改革」、「事業構造改革」、「企業風土改革」に引き続き注力していくことには変わりはありません。

「コスト構造改革」では、人員効率化や固定費削減等、本質的なコスト削減に引き続き取り組んでまいります。デジタルトランスフォーメーションはその推進に不可欠であり、全社横断で進めていく予定です。

「事業構造改革」については、建築用ガラス事業では、太陽電池パネル用ガラスの拡大やビル・住宅向け建物一体型太陽光発電パネルの開発に取り組んでおり、高付加価値ガラス事業の拡大を進めています。高機能ガラス事業では、コンタクトイメージセンサーに使用されるSELFOC® Lens Arrayの産業用検査機用途等デジタル市場への展開を図っています。脱炭素社会を

背景に伸びる複合材市場への新たなソリューションとして上市した高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」は、輸送機の構造部材として多くの引き合いを受けています。

「企業風土改革」では、「コスト構造改革」「事業構造改革」を成し遂げていくため、4(=3+1)つの「F」(Flatな組織、Frankなコミュニケーション、Fastな意思決定+職場におけるFun)と人材の多様化により、改革を加速してまいります。

以上のRP24における3つの改革の推進を踏まえ、将来に向けた戦略として、4つの「D」(Decarbonisation(脱炭素化)、Digital(デジタル)、Development(新規事業・製品開発)、Diversity(多様化))をキーワードに取り組んでまいります。「脱炭素化」と「デジタル」は、グループ事業の成長のためだけでなく、コスト削減等オペレーションにおいても極めて重要です。また「脱炭素化」と「デジタル」という市場トレンドをビジネスにつなげるため、新技術、新商品、新ビジネスモデルの「開発」をしてまいります。そして事業の発展に欠かせない、新しいアイデアの源泉として人材の「多様化」をより一層進めてまいります。

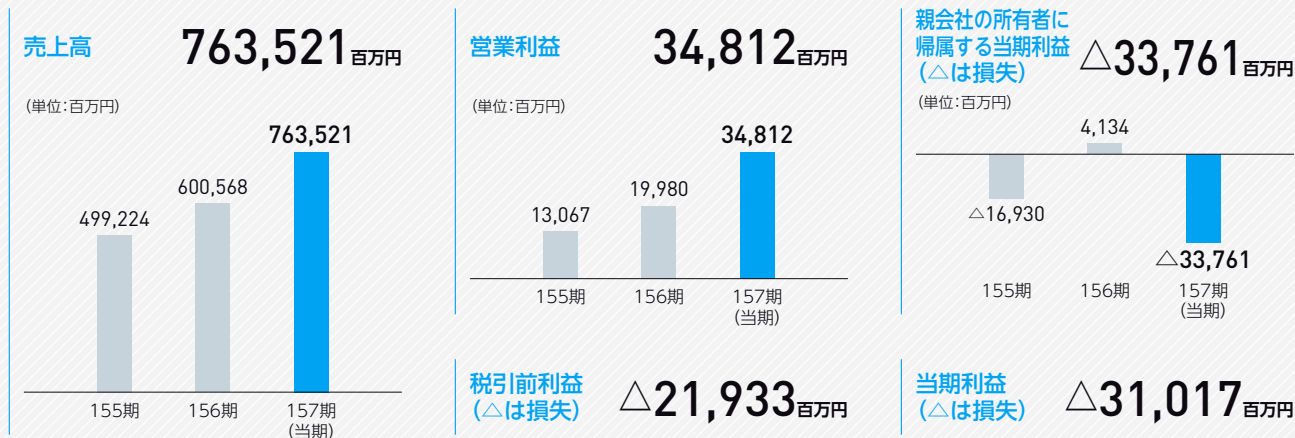
これらの改革と戦略の実行により、早期の収益力の回復と事業構造の転換の加速を実現し、安定的な純利益とフリー・キャッシュ・フローを創出する持続的成長が可能な事業体質への変革を進めてまいります。

配当について

当社グループでは、持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としております。

当期の普通株式の期末配当につきましては、当社グループの業績、財務状況等を総合的に勘案し、誠に遺憾でございますが、その実施を見送ることといたしました。配当は株主の皆様にとって非常に重要なものであると認識しており、グループの業績改善、財務基盤の強化に注力し、一日も早い配当再開を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



注1：当社は国際会計基準(IFRS)に基づいて連結財務諸表を作成しています。
注2：上記に記載の営業利益は、個別開示項目ベースの営業利益を記載しています。

NSG at a Glance

2022年4月1日～2023年3月31日

NSGグループは、建築用ガラス、自動車用ガラス、高性能ガラスの各分野でグローバルに事業を展開しています。

高性能ガラス

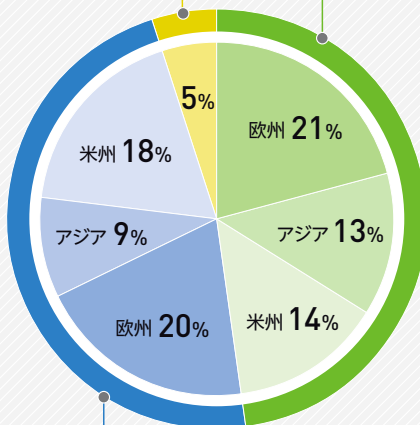
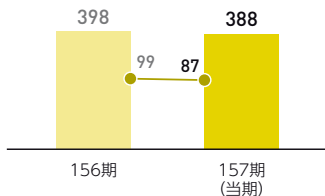
5%



- 日本、中国、欧州に主要製造拠点
- ニッチ市場でNo.1/オンリー1

- ・ 前期に売却したバッテリーセパレーター事業を除くと、増収を継続。
- ・ ロックダウンや景気減速の影響による販売数量減少、コスト増加もあり利益率は低下。

■ 売上高 ● 営業利益 (億円)



建築用ガラス

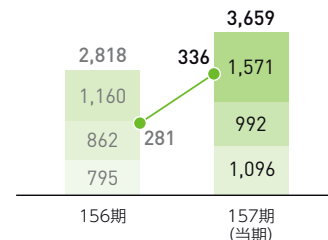
48%



- 世界に27のフロート窯
- 薄膜太陽電池パネル用ガラスのリーディングサプライヤー

- ・ 売上は、全地域での強い需要と価格改善を背景に、為替の円安効果もあり大幅な増収。太陽電池パネル用ガラスの需要も堅調。
- ・ 営業利益は、原燃料料費の高止まりや運送費、人件費高騰の影響を受けたものの、増益。

■ 売上高 ● 営業利益 (億円)



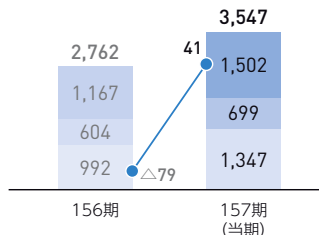
自動車用ガラス

47%

- 14カ国に主要製造拠点
- 補修用ガラスの流通・販売で世界最大級

- ・ 自動車メーカーに対する販売価格改善交渉が進捗し、部品不足による自動車生産制約の影響も徐々に解消。
- ・ 原燃料料費の高騰があったが、販売価格の改善等により増収増益を達成。

■ 売上高 ● 営業利益 (億円)



TOPIC 1 世界最大級のガラス展示会 “Glasstec”に出展(ドイツ)



2022年9月、国際的なガラス展示会Glasstec(グラステック)が、119カ国から3万人以上の来場者を集め、デュッセルドルフ(ドイツ)で開催されました。47カ国から900社以上が出展する中、当社グループも窓などを利用して太陽光発電を行うBIPVウィンドウガラスをはじめとする高付加価値ガラスを出展し、大変好評を博しました。

また、同時開催のイベントでは当社グループの先進的な環境貢献の取り組み等を紹介しました。

TOPIC 3 AIを駆使する環境配慮型調光ガラスが、 国内オフィスビル向けとして初の本格採用



2022年10月開業の九段会館テラス(東京都千代田区)に、米国View(ビュー)社の環境配慮型調光ガラス「View Smart Glass」が国内オフィスビル向けとして初めて本格採用されました。「View Smart Glass」は、センサーやAIを駆使してエレクトロクロミック膜コーティングガラスの透過率を4段階に調整し、室内に差し込む自然光・熱量を最適化します。

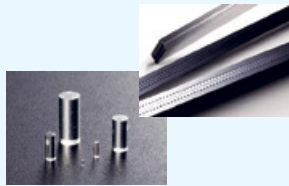
当社グループとView社は同製品の開発初期段階からのパートナーであり、これからも協力して日本国内での展開を進めていきます。

TOPIC 5 CDP「サプライヤー・エンゲージメント 評価」で2年連続最高評価



当社は、環境影響の情報開示に取り組む国際的NGOのCDP(本部:英国)から、最高評価「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に2年連続で選定されました。同評価は、気候変動問題に対する企業のサプライチェーンへの働きかけを評価する指標であり、今回は、世界上位8%にあたる653社(うち日本企業131社)のみが選定されました。

TOPIC 2 国内最大・最先端のマシンビジョンが集う 「国際画像機器展 2022」に出展(横浜)



2022年12月、150社以上のマシンビジョン関連企業が集う「国際画像機器展 2022」が開催され、画像処理に関連する最新のテクノロジーが集結しました。高精度なレンズへのニーズが高まる中、当社からは、作動距離を2倍に向上させた「SLA 5AG」を含む「SELFOC®レンズシリーズ」を出展し、マシンビジョン製品の小型化・省電力化や高速通信を実現する製品として、来場者から大きな注目を集めました。

※マシンビジョン:画像の取り込みと処理された情報に基づいて機器を動作させる仕組み。例、自動検査機など。

TOPIC 4 透明太陽光発電窓パネルの実証実験を 高輪ゲートウェイ駅で開始



JR高輪ゲートウェイ駅(東京都港区)構内で、ENEOSホールディングス株式会社が出資し、当社が共同開発を行う、米国ユビキタスエナジー社の透明太陽光発電窓パネル「UE Power™」の実証実験が行われています(2023年5月8日~7月14日)。このUE Power™は、透明度を保ちつつ、太陽光をエネルギー源として高効率の発電を可能にする窓パネルであり、将来的に高層ビルなどでの発電も期待されています。今回の実験は、当社、ENEOS社とともに東日本旅客鉄道株式会社、YKK AP株式会社が共同で実施しています。

TOPIC 6 「健康経営優良法人2023」に認定



2023年3月、当社は経済産業省及び日本健康会議が実施する健康経営優良法人認定制度の大規模法人部門で「健康経営優良法人2023」の認定を受けました。当社は、1918年の設立以来、人を尊重する経営を掲げ、2020年1月には「健康経営宣言」を行い、従業員やその家族の健康増進に取り組んできました。今後も従業員がその能力を最大限に発揮できるよう、健康経営を一層推進していきます。

株主メモ

| | |
|---------------------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 |
| 基準日 | 定時株主総会の議決権 3月31日 剰余金の配当9月30日・3月31日 |
| 公告の方法 | 下記ウェブサイトに掲載する。 https://www.nsg.co.jp/ |
| 株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関 | 三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 |
| (郵便物ご送付先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話ご照会先) | 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間9:00-17:00 (土日休日を除く) |

ご住所変更などのお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様の株式につきましては、上記の電話ご照会先までお問い合わせください。

▶ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式(最低取引単位に満たない1~99株の株式)をご所有の場合、当社に対して、

- (1) 買取請求または
- (2) 買増請求(ご所有の単元未満株式と併せて1単元(100株)に達するまでの株式を買い増すこと)

をすることができます。

お手続きの詳細につきましては、一般口座ご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社までお問い合わせください。特別口座の株主様(証券会社の口座に当社の株式を預けられていない株主様)につきましては、上記の電話ご照会先までお問い合わせください。

会社概要 (2023年3月31日現在)

| | |
|----------|---|
| 商号 | 日本板硝子株式会社 |
| 本店 | 〒108-6321 東京都港区三田三丁目5番27号 (住友不動産三田ツインビル西館) |
| 設立 | 1918年11月22日 |
| 従業員数(連結) | 24,880人 |
| 資本金 | 116,756百万円 |
| 会計監査人 | EY新日本有限責任監査法人 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所プライム市場 (証券コード:5202) |
| お問い合わせ | https://www.nsg.co.jp/ja-jp/contact-us |

INFORMATION

お知らせ

第157期定時株主総会の議決権行使結果につきましては、臨時報告書により、インターネット上で、EDINET (<https://disclosure2.edinet-fsa.go.jp/>)に掲載されるとともに、当社ウェブサイトにおいても開示されます。
これらをもって決議ご通知に代えさせていただきますので、ご了承ください。

ウェブサイトのご案内

当社グループのウェブサイトでは、決算情報や最新プレスリリースなど、様々な情報を掲載しております。
どうぞご利用ください。

スマートフォンからはこちらのQRコードをお使いください。
(日本語版)



<https://www.nsg.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

